

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370800700		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホームあやすぎの里		
所在地	熊本県山鹿市鹿北町岩野5497-1		
自己評価作成日	平成26年2月27日	評価結果市町村受理日	平成26年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成26年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多くの自然に囲まれた閑静な地区にあり、日常生活の中で、ふんだんに四季を感じる事ができる。地区の催し事や地域サロンに参加をしながら、地域住民との関係作りに努めている。また、併設施設や法人内の保育所、近隣小学校との交流を行ない、利用者が刺激を持てるような工夫や、利用者がこれまで築かれてきた関係性の継続に配慮している。月毎の家族へのお便りや都度の報告、今年度は家族からの提案もあり家族交流会を開催する等し、家族との関係の強化、助言をいただけるような関係作りにも配慮している。今年度は運営推進会議の委員の中に料理が得意な方が居り、地域の方々も招いて一緒にポン酢作りや化粧水作りも行なった。又、施設内には月毎の写真を展示することで、面会者や見学者に普段の様子や行事等の様子を知って頂ける様な工夫も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外観は一般の民家風で、室内には施設の名に由来する大きなあや杉が使われた落ち着いた和風のたづまいのホーム。5S(スマイル・サービス・スタディー・スペシャリティ・セーフティ)の理念の基、利用者中心のケアの提供をめざし、地域との連携や家族との関係を深めながら、施設らしくない近所づきあいのある家を目指している。中庭からの日差しを浴びながら楽しそうな会話や笑顔での体操、洗濯物たたみなど、思い思いにくつろぐ姿が見られ、日々ゆたりとした時間の中で自分らしく過ごされている様子が見られた。職員は、話しやすい環境の中で、積極的に他事業者との交流や研修へ参加し、資格取得を目指して、資質向上への努力を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を基に、常に情報の共有に努め理念の実践に繋げている。	法人全体の基本理念「いたわりとやさしさ」に基づき、あやすぎの里独自の理念5S(スマイル・サービス・スタディー・スペシャリティー・セーフティー)を掲げケア目標として、①全人的ケア②地域に根ざした事業③人材育成の3カ条を明確に表現し、見やすい場所に掲げ、職員で確認しながらサービスの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域福祉協力員の協力を得ながら、地域のサロンに参加したり、事業所の敬老祝賀会に地域の方を招き交流会を行う等機会作りに努めた。又、運営推進会議を通じて地域との情報共有に努めた。	地域のサロンへの参加やホームの敬老会へ地域の方を招待する等、地域福祉協力員の力を得て、定期的な保育園児の訪問等地域との交流を深めている。また、地区主催の「徘徊模擬訓練」に参加し、地域の防災訓練へ参加する等、地域への貢献と区長や地域の人々との関係強化に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議による、情報の共有と伝達。今年度は地域の『ご近所さん捜索・声掛け訓練』に主催として参加し、意見の交換・助言等を行なった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時に情報共有や情報収集に努め、相談に応じたり、行事の開催に繋げている。	推進会議は社協や包括・行政・認知症サポートリーダー・民生委員・家族等毎回10名程度の参加を得て開催。活動報告や行事予定・ホームの状況報告があり、それぞれの立場から多様な意見が出されている。尚、出された意見は、運営に活かされ、市や町の情報による研修会への出席も、サービスの質の向上に取り組む体制作りとして活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き、情報共有や依頼等があれば可能な限り参加し協力を行っている。	運営推進審議会への出席や、情報提供・質問に対しては調査後回答を貰う等、配慮を得ている。また、市の介護サポートリーダー研修へ参加し、「介護相談、実態把握事業」の委託を受ける等の協力関係作りが図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを前提とし、状況に応じてスタッフ間や家族とも相談・検討を行ない実践に繋げているが、1名の方に限り夜間のみベッド4点柵を家族の同意の下行って方が居る。現在、拘束を介助できるような検討を行なっている。	ミーティングと申し送りでその日のケアを振り返り、スピーチロックや無視等行っていないか、職員間で意見交換し点検している。職員の見守りを徹底しその日の入居者の気分や状態に合わせた介助で、自由な暮らしの支援が行われている。日頃から利用者や家族との信頼関係を築きその人に適した対応や雰囲気づくりが、利用者の安心に繋がり、拘束のないケアの実現となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で虐待について意識の統一を図り、日常の対応の中でもスタッフ間でお互いに声を掛け合う等し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、参加が出来なかったスタッフへの伝達講習や、学ぶ機会作りに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書を用い、しっかりと理解を得られるような説明に努め、必要時または質問を受けた際には、時間を設け納得いただけるような説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族・近隣住民・関係者等から要望や意見が出た際には直ぐにスタッフ間での検討を行ない、可能な限り運営に反映している。又、検討結果はその旨家族等へも報告し理解を得られるよう努めている。今年度はご家族より、他の家族やスタッフとの交流の機会があってもよいのではないだろうかとの提案があり、家族交流会を開催した。	家族総会年1回開催し、家族のみでの話し合いの場を設ける等で、要望や提案が出しやすい環境づくりを行っている。家族の希望で家族の交流会が開かれ、家族・利用者・職員でのパン作りやレクリエーション・昼食会を実施、好評を得ている。面会時に意見要望を出して貰えるよう工夫しながら、毎月の「あやのすぎの里便り」に担当者からのコメントを添え送付し、要望を聞く機会にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は業務の中やミーティング等を通じ、意見が出た際には、しっかりと話の聞き取りに努めている。又、代表者へは管理者を通じて意見を伝え可能な限り意見が反映されるよう努めている。	職員の提案は「拒否しない」「止めない」「他の人の意見も聞いて」という施設長の考えで、意見の出しやすい雰囲気があり、勤務時間の変更等、具体的に話し合を行い、法人の上司に相談し決定している。また、職員の提案で写真展示の工夫や廊下のベンチを移動し洗濯物干場にし、利用者中心の環境づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り要望を反映できるような職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの個性を生かせるような役割分担を行ない、研修への参加やミーティング等での発表の場を作る等し、各スタッフの能力向上の機会作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに見学に行ったり、グループホームのブロック研修会や認知症サポーター研修などを受講する機会を設け、同業者等との交流の機会を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や関係者からの聞き取りを行ない、資料を用いながらスタッフが利用者の状況をしっかり理解し、情報を踏まえながらその方と関わり、信頼し合える関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り多くの情報を得られるように、しっかりと時間を掛け、利用者や家族等からの聞き取りを行なうと共に、入居後も生活の様子や面会の際等に報告・相談を行ない信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況把握に努め、入居後も安心して生活出来る様、必要なサービスの導入がスムーズに行なえるような関係者・関係機関との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力について、スタッフ間で情報を共有・理解し、本人が自信を持って生活が送れるような援助の工夫を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も積極的に関わられる様な機会づくり・環境づくりに努めている。家族には交代制で運営推進会議に参加して頂くなど関わりを持つ努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もこれまで関わられてきた方々との関係が維持できるような支援を行ない、また、面会にも来易いような雰囲気作りに努めている。	馴染みの関係継続に力を入れ知人友人の情報の収集に努め、家族的な雰囲気づくりに配慮し、訪問しやすい環境づくりを心がけているが、高齢化と共に訪問者は少なくなり、法人に通う人の立ち寄りや理美容の訪問などの立ちよりのみとなっている。入居後同じテーブルに座る人や気の合う人と一緒に入浴する等、新しい馴染みの関係作りが出来、それぞれのコーナーでは気の合う仲間同志の会話に夢中の姿が見られた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での関係性をしっかりと理解し、利用者同士が直接、またはスタッフを通しお互いに支えあえるような機会作りを行ない、スタッフが関係構築の妨げにならないように注意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も管理者が時折家族へ連絡をし状況の聞き取りを行ったり、担当ケアマネージャーから聞き取りを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にゆっくりと話をし、思いをしっかりと聞き取れるようにし、様々な活動を通じ、話をする中から本人の興味や想いを引き出せるようにしている。	入居時に本人・家族から情報を収集、利用者との信頼関係の構築に努めており、気軽に要望を伝える様子が見られた。職員も日頃の関わりの中で、表情や様子から思いを察知するよう努めており、その時々思いに沿った支援で、心の安定を図る努力が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、前担当ケアマネージャー、知人から可能な限り聞き取りをし、情報収集を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネージャーを中心にアセスメントを行ない、現状の把握、状態の共有に努め、日常のケアに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で得たニーズ・課題をスタッフ間でのカンファレンスや、本人・家族との話し合い、時には知人や運営推進会議でのアドバイスを受け、ケアプランを作成し、より良いケアの提供に繋げている。	24時間を共有する家族としての関係を作りたいとの思いで、理念の5Sに繋がったケアプランにの實現に努力している。担当者がアセスメントを行い、ケアマネージャと共に確認したのち、介護計画を作成。担当はケアプランを基に個別支援計画を作成しており、家族とケアマネ・担当と協議し、実践に繋げている。なお、ケアマネージャーは、実践を行いながら、方向性を間違えないモニタリングやアセスメント、課題抽出になっているかの努力をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の暮らしや現状の課題を分かり易く記録し、確実な情報の共有に繋がられるような記録に努めている。又、必要時には記録様式の変更や記入方法を検討し、改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉協議会に相談し、開催行事に参加をしたり、地域の核となる方々との連携を取りながら、柔軟にサービスの提供が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロンへの参加や地域行事への参加等、資源を活かしながら楽しみを増やせるような取り組みに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意見を尊重しながら、入居後のかかりつけ医を決めている。かかりつけ医を入居後に変更する場合には、安心して医療を継続して受ける事ができるような情報の伝達・共有を行なっている。	従来からのかかりつけ医を利用し、家族の希望に沿った医療支援を行っている。通院は職員の付き添いで行い、病状の報告は電話で随時おこなわれている。尚、必要に応じては家族の付き添い受診もあり、数名の利用者には往診での診療も行われている。また、入院時には、管理者が今後の方針等詳しく説明し、利用者・家族の不安解消を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化がある場合には、すぐにかかりつけ医に相談・対応を行ない、本人や家族の安心に繋がれるように支援している。訪問看護・訪問診療を利用する場合もあり、柔軟に対応できる様な連携が取れるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も面会や家族、病院への連絡を行ないながら本人のストレスの軽減に努め、しっかりと情報共有しながら早い退院へ結びつけられる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族との話し合いを持ち、訪問診療等の支援も受けながら、可能な限りホームでの生活が出来るように支援している。しかし、出来る支援にも限界がある為、家族へもその状況をしっかりと伝え、理解を得ながら必要性があれば入院を勧めたり、併設施設とも連携を持ち、スムーズに特養への入所が出来るように努めている。	看取りの希望者は少ないが、ホームでは重篤になった際の対応等の説明は行っている。日頃から家族との連携を図り、利用者の状況の共有を図り、症状悪化の場合は主治医や家族と話し合い、母体ホームからの応援を得て協力医の往診で対応し、入院直前まで平穩に普通の生活が出来るよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医からの助言を仰ぎながら、必要に応じ緊急時の対応についてスタッフ間で話し合いを持ち、実践出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定避難訓練を実施し、全スタッフが利用者が非難できる方法を身につけることが出来るよう努めている。また、運営推進会議での伝達及び、緊急連絡網に近隣住民の連絡先を入れ、緊急時に協力を得られるようにしている。	年間2回の避難訓練を実施している。母体特養ホームと自動火災報知機が連動しており、訓練も双方の参加が行われ協力関係が築かれている。職員が地域防災訓練に参加しており、地元区長との連携が持たれたことで、地域ぐるみの防災への協力体制の構築に期待がもたれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアにおいて、スタッフ間で助言し合ったり、より良い対応についてミーティング等での話し合いを持つ等し、資質向上に繋げている。	これまでの一人ひとりの生活や経歴・環境の違いを念頭に、一人ひとりを尊重した対応を心がけている。家族や周りからの情報を収集し、収集した情報は共有化を図り、ケアに活かしている。また、常に傾聴を心がけその人を尊重した対応を行っている。居室には洗面台やトイレが設置されいつでも周りに、気兼ねなく排泄ができ、歯磨き、洗顔等も他の人とダブル事なく自由にゆっくりできる環境がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に努め、想いをしっかりと引き出せる様に努めている。スタッフ間でも情報の共有を密に行ない、より良い関係性が維持できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴に限っては、時間を決め提供しているが、場合によっては利用者の状況に応じて臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	趣味・趣向を大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の気持ちが向くような配慮に努めながら、声掛けや必要な支援を行なっている。その際には、無理強いをする事がない様にしっかりと様子を伺いながら対応している。	特養の管理栄養士による献立を基に、自家栽培した野菜を利用し季節感のある食事づくりが心がけられている。今年度は、職員の提案で「手作りおやつ」と「目で楽しむ食事」に取り組み、トレイが採用され、食器は食事に適した形状で明るい色調のものが揃えられている。美味しく食べるためにと、歯科衛生士の口腔ケア等の協力もある。また、調理用のマニュアルがあり、誰でも同じ味付けになるよう工夫されており、職員の不安解消に役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が立てた献立を基に季節感を感じれるような料理を調理し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設施設の歯科衛生士の指導の機会を設け、本人の口腔内の状況の把握・適したケアの実施・口腔体操等を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況に合わせて迅速に検討行ない、本人の想いをくみ取りながら、環境作り・配慮に努めている。	居室にトイレ・洗面台が装備されており、トイレでの排泄を基本にしながら、排泄パターンに基づいて利用者の思いに沿ったさりげない声かけ支援を心がけている。家族は入居前の排泄状況と、職員が当たり前のケアとして実践している排泄支援との違いに驚き、安心している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分がしっかりと確保できるような食事の工夫や、主治医・栄養士とも相談をしながら気持ちの良い排泄に繋がられる様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は13:00～16:00の間で提供。本人の気持ちや希望にあわせ状況を見ながら提供している。	入浴は週2回で、気の合う人と一緒の入浴や一番風呂希望への配慮などの気配りで入浴拒否も見られなくなっている。季節にあわせてユズ湯や菖蒲湯・入浴剤を使用する等、気分転換や楽しみを加えた支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境作りや空調の調整等しながら、安眠が得られるように配慮している。どうしても睡眠に満足が得られない様などには、主治医と相談をしながら適切な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用する薬について、スタッフがきちんと把握し、処方の変更があった時には、主治医や薬剤師より十分に注意事項の聞き取りを行ない文書及び口頭による申し送りを行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの趣味・趣向の聞き取りに努め、入居後も継続して行なえるような支援を行なっている。又、新しい楽しみ事を見つけ出せるような配慮にも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得られる方においては、相談をしながら外出・外泊の機会が持てるようにしている。病院受診の帰りに自宅へお連れし家族と会う機会を作ったり、希望があれば買い物にお連れする等している。又、買い物やバスハイクが行なえるような行事の企画を行なっている。	バスハイクで近くの菊祭りや彼岸花見物・ちぶさん古墳見学等、外出の機会を多くしている。通院の帰りの買い物や食事楽しみの一つとなっている。最近では、ショッピングセンターよりも野菜市場等への希望が多かったり、マンツーマンでの外出時の会話では「メモとった？」など、年長者として職員への助言する場面も見られ等、楽しみ支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の理解がある方については、本人で所持されている方も中には居られ、家族の方に確認して頂きながら本人の理解度に応じ、事務所で預かったり家族に管理して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用については制限をせず、希望時に必要な対応をしている。手紙が届いた際には、返事を書かれないかと勧め、希望時には代筆する等必要な支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやホーム内には、季節の花を飾ったりテラスに花を植えるなど、季節を感じれる配慮をしている。又、不快さや混乱を招くような状況が見られる時には、迅速に対応している。	天井が高く、廊下から続く屋外テラスにも、自由に出られるよう鍵も掛けられず、心地よい空間がつくやしている。木製の塀に囲まれた菜園には季節の野菜が育てられ、中庭を通してリビングやキッチン、仏間、広いテラスなどが一望でき、利用者と職員が家族として生活している姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にテーブルや椅子を配置、リビングと居室の中間となる空間作りにも努めている。又、避難経路の障害物になっていないか等検討し、安全にも配慮しながら工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族・スタッフ間で相談行ない、本人の心身の状況に応じて家具の設置などをしながら安心して安全に過ごせるような配慮を行なっている。	中庭に面した居室の廊下には、壁一面に思い出の写真がか飾られ、優しい雰囲気が漂っている。フローリングと畳の居室があり、利用者の希望や状況に合わせて選択されている。備え付けの洗面台、トイレ、ベットや家具は、施設と感ぜさせない工夫があり、1人ひとりの思いが感じられる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角となる部分の整理や危険物の除去、トイレや目印になるものの設置など安全に配慮しつつ、温かみのある環境作りに努めている。		